

委員会活動を通じて従業員の連帯感を高め 「働きがいのある運送会社」を全員で目指す

柏市に本社を構える㈱ドリーム（久保田圭一郎代表取締役 CEO）は、久保田社長が21歳の時に事業をスタートした。

同社では業容拡大に対応すべく、企業としての組織固めを図るために「社内委員会」制度を平成20年に導入。委員会活動を通じて組織としての協調性を培い、未来へのさらなる飛躍に向けて、久保田社長を先頭に全従業員が一致団結して挑んでいく。



同社のカラーである赤のラインが入ったユニフォーム姿で、同社のトラックの前に立つ久保田社長

■独自開発の勤怠管理システムで効率化を実現 信頼感を一層深める「日々の雑談」

㈱ドリームは、関東地方をエリアに陸・海・空の荷物全般を運び輸送事業部（柏、千葉、土浦の3営業所体制）を中心に、アドトラック事業部、システムソリューション事業部からなる運送会社である。

久保田圭一郎社長の父親はパラセメント輸送のトラックに勤務していたほか、久保田社長誕生後には母親も大型自動車免許を取得し、女性ドライバーとして活躍していた。また、2人の姉もドライバーとして働いていた。プロトラックドライバーの凛々しい姿を幼い頃から間近で見てきたこともあり、久保田社長は小学校の卒業文集に、「将来は運送業に就きたい」と夢を記したという。

その夢を実現したのは平成9年10月、久保田社長が21歳の時である。久保田社長はトラック1台を購入し、個人商店として久保田総業を創設。飛び込み営業を重ね、地道に取引先を増やしていった。15年には組織化を図るために、㈱久保田総業を設立。その翌年には車両台数15台を突破した。なお、久保田社長が30歳となった17年に、千葉県トラック協会に入会するとともに、千葉県ト協青年部会にも所属している。

その当時は、久保田社長も自らハンドルを握るとともに、会社の経営を守るために精力的に営業活動を展開していた。一方で、まだ企業としての組織固めが十分ではなく、ドライバーに対する指導が必ずしも行き届いていなかったという。久保田社長は、「当社が今後も運送事業者として健全に成長していくためには、今の状況を変えなければならない」と決意。㈱ドリームに社名を変更した20年に、地元である柏商工会議所青年部で学んだ組織基盤づくりの方策を取り入れ、「社内委員会」を立ち上げた。

「同社で働く従業員の意識をひとつにする」ことを目的として立ち上げた社内委員会は、5つの委員会から構成されている。その中核となるのは「安全衛生委員会」である。同委員会では安全輸送の実現を目指し、全従業員参加によるミーティングを月に1度開催。ドライブレコーダーで取得したヒヤリハット映像などによるKYT活動や事故防止

に向けた意見交換などを通じて、ドライバーの安全への意識を高めている。また、ビジネスマナーなどの社員教育を通じて輸送品質向上を図り、荷主に安心してもらえる輸送サービスの提供を目指す「社員教養委員会」、車両内外清掃や営業所周辺の道路清掃、エコドライブ教育など環境や人に優しいトラック輸送の実現に取り組む「環境美化委員会」、ボーリング大会やバーベキュー、新年旅行や交通安全祈願などといった社内イベントの企画・運営を通じて、従業員全員の絆を深めるとともに、夢を持たせ、より良い社内風土づくりに貢献する「親睦夢限委員会」、各委員会に対して総合的なバックアップを行う「総務委員会」（事務所内勤者対象）も設置している。

社内委員会の大きな特徴となっているのが、「全従業員参加型」となっていることである。同社の従業員は、必ずどこかの委員会に所属しなければならない。また、採用面接の際にも、求職者に対して委員会に関する説明を実施。採用となった新人は、入社直後から委員会に所属してもらうことになる。

委員会は5～6人程度で構成されており、委員長をリーダーに、目標実現に向けて取り組みを進める。なお、顕著な活動が認められた委員会に対しては、報奨金が支給される。

「トラックドライバーは乗務中に人と接することが少なく、一匹狼的なところがあります。しかし、当社が将来にわたって健全に成長し続けていくためには、『組織としての協調性』を養い、全従業員が同じ目標に向かって進んでいく必要があると考えました。委員会活動を通じ、個々のメンバーの責任感が高まるとともに、メンバー同士のコミュニケーションも深まります。従業員全員が心をひとつにして取り組むことができるようになったおかげで、事故防止や輸送サービス向上、環境対策などで様々な効果が生まれています」（久保田社長）



久保田 圭一郎
代表取締役 CEO



アドトラック事業部ではラッピングトラックのデザインや制作なども手がける



同社で独自開発した、QR コードを活用した勤怠管理システム「さんたいいち部長の管理簿」



久保田社長は、従業員との信頼関係を築く上で「日々の雑談」を大切にしている

さて、同社では中核となる輸送事業のほかに、2つの関連事業を展開している。20年からは、広告宣伝のためにトラックを公道で走行させるアドトラック事業に乗り出している。アドトラック事業部では、自社で所有している大型増トン車1台をアドトラックとして運行するほか、他社が所有するアドトラックの運行管理も担っている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大期には外出が控えられたこともあって、アドトラックの運行がキャンセルになることも少なくなかったが、感染状況の落ち着きとともにアドトラックへのニーズが高まってきているという。

また30年には、システムソリューション事業部を開設している。同事業部では、勤怠管理システム「さんたいいち部長の管理簿」を開発。令和元年からは同業他社や他業種の事業者などへの販売も行っている。

同システムの開発は、ドライバーの長時間労働への対応が大きなきっかけである。「物流の2024年問題」を目前に控え、同社においてもドライバーの拘束時間削減への取り組みは急務となっている。拘束時間削減に向けては、まず拘束時間を正確に把握するとともに、ドライバーの日々の働き方に潜んでいる改善点を見極めた上で、自社でできる対策を進めるとともに、荷主に対しても協力を要請していく必要がある。

同社ではかつて、ドライバーにタイムカードを押印させ、勤務状況を内勤者がノートに書き写して勤怠管理を行う手法を採っていたが、内勤者によるチェックや集計に多くの時間が取られるほか、ノートに書き写す際の記入漏れなどもあり、従業員が増加するに連れて内勤者にかかる負担が無視できない状況となっていた。久保田社長はこうした状況を改善させるために、プログラミングに興味を持っている従業員にシステム構築を依頼し、独自開発の同システムを完成させた。

同システムでは、QRコードを用いて従業員の出退勤を管理する。営業所の入口にはQRコードが掲出されており、出勤してきた従業員が自分のスマートフォンでQRコードを読み取ることで、システムに出勤時刻が記録される。退勤時にも同様に、スマートフォンでQRコードを読み取って、退勤時間を記録する。これにより、内勤者の勤怠管

理に係る負担軽減に繋がった。さらに、取得したデータを点呼や配車管理、給与ソフトにも連動させたことで、多くの業務において大幅な効率化を実現することができた。

「適切な勤怠管理は、従業員の健康を守る上で欠かすことができません。勤怠管理のデジタル化を通じて、従業員が健康で安心して働ける環境を整えることができました」（同）

現在48歳になった久保田社長が、従業員との信頼関係を築く上で大切にしているのが、「従業員との日々の雑談」である。雑談を通じて従業員のまだ見出されていない才能を見出し、得意分野を伸ばしていくことで、従業員の働きがいややりがいに繋がる。同システムの開発も、雑談によって、プログラミングという才能を久保田社長が見出したからこそ、実現したものである。

「経営者としては、日頃からのコミュニケーションを通じて、従業員の思いを汲み取り、従業員の気持ちに寄り添いながら事業を進めていく必要があると考えています。私の経営者としての最終目標は、当社を『この会社で働いていて良かった』と従業員に思ってもらえるような会社にしていくことだと考えています。そのためには、会社に何が求められているのかを理解した上で、改善を重ねていく必要があります。毎月の安全ミーティングでは、ドライバー一人ひとりから意見を募る時間を設けています。経営者としては、雑談やミーティング、点呼などを通じて積極的に従業員の声に耳を傾け、コンプライアンスを重視した働きやすい職場環境づくりを推進していかなければなりません。一方で、当社の事業を継続していくためには、売上を増やし、適正な利益を確保していく必要があります。そのためには、質の高い輸送サービスをお客様に提供し続け、お客様から高い評価をいただくことが何よりも大切です。当社では社是として、『ありがとう』『ごめんなさい』『感謝』『謝罪』が言える素直な人間になることを掲げています。謙虚な姿勢で業務に取り組むことの重要性を従業員に対して訴え続けるとともに、委員会活動を通して従業員の連帯感を一層高め、輸送品質のさらなる向上に繋げていきたいと考えています」（同）

ホットにゆーす

■父親の背中を追ってDIYの道へ 本社営業所のセルフビルドにも挑む

久保田社長の父親はDIYが趣味だったこともあり、父親の影響を強く受けてDIYに熱心に取り組んでいる久保田社長。

同社の本社営業所建設の際にも、ブロック塀の基礎工事や土間コンクリートの打設などは父親と二人で作業したという。

「休みの日には、電動工具を使っていろいろなものを作っています。大変な作業もありますが、大変さを乗り越えて、何かを作り上げた時の喜びは非常に大きいです」（同）



久保田社長と父親が基礎工事などを行い完成させた、同社の本社営業所

企業プロフィール 株式会社 ドリーム

代表取締役 CEO 久保田 圭一郎
本社 千葉県柏市若柴 111-11
従業員 42人（うちドライバー 40人）
台数 42台